

東京都公立学校情緒障害教育研究会



団体の概要

本会（略称：都情研）は東京都の特別支援教育の充実・発展に寄与することを目的とし、情緒障害教育、発達障害教育等に関する専門研修を通して、教職員の専門性向上を目指している。研修会は全都の公立幼・小・中学校教職員、区市町村教育委員会職員等が対象となる。

発表テーマ

「通級による指導の仕組みと指導者のやりがい」

今年度の活動

特別支援教室の利用者は、小学生約2万人、中学生約4千人と昨年に続き急増している。また、その指導にあたる教員も小中学校合わせて約2500人となり、そのうち発達障害教育の経験年数5年以下が8割、更に2年以下が5割を超えた(本会実態調査より)。経験年数の浅い教員が増える中、昨年実施した都教委の和田慎也主任指導主事、文科省の田中裕一調査官、創価大の渡辺秀貴准教授を招聘してのシンポジウムにおいて「教師のやりがい⇔子供たちの成長（指導の効果）」についてご示唆をいただき、今年度の活動計画を立てた。当初の計画通りの研究はできなかったが、「感染症対策下での指導と配慮」の動画配信、参加人数を制限したブロック別の対面式研修会、Zoom等を活用したサテライト方式の研修会等を実施した。11月の「研究大会兼セミナー」では、長谷川安佐子先生（元新宿区教委）に「通級による指導を愉しむ」と題してご講演をいただき、都内10会場（参加者約600人）をZoomでつなぎ、協議を行った。その講演や協議の内容を基に以下を提案する。

「通級による指導の仕組みとやりがい」

「通級による指導」とは週1～8単位時間程度、障害に応じた特別な指導を、特別の場で行う教育形態である。東京都の特別支援教室もこの「通級による指導」の指導形態の一つである。利用者の中で最も多い障害種別は「自閉症」である。よって指導者に求められる専門性の第一は「自閉症を理解する」ことである。自閉症の指導については「障害に応じた通級による指導の手引き解説とQ&A」（文科省編著）にあるように、「個別指導と小集団指導の併用」が効果的である。これは、障害の特性上、知識として個別で学んだことを一般化する場面として小集団が有効ということである。同時に「一般化できるとき」＝「子どもたちの変化や成長に教師が会おうとき」であり、教師が「やりがいを感じる時」である。今後はこれを実感できる適切な指導内容・時間について実践的な研究を重ねる必要がある。

代表者・ 連絡先

代表者：国立市立国立第二小学校 校長 小林理人

連絡先：西東京市立東伏見小学校 指導教諭 上山雅久 電話番号 042-463-4517